

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 関空立国デスティネーション化推進事業

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標 I : 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

関連のある数値目標: 観光入込客数 669万人/年(H30) → 715万人/年(R6)
観光消費額 47,554百万円/年(H30) → 52,025百万円/年(R6)

1 事業概要

事業目的	関西国際空港は2011年のLCC便の就航開始以降、総発着回数、総旅客数が2018年度では過去最高となり、インバウンド客をはじめとする来訪者が空港利用者数の伸びと比例して急増している。このような状況下において、空港に近いという地理的優位性と交通利便性の強みを活かし、夜間の消費喚起につなげるナイトタイムエコノミーの推進や新たな観光資源の創出等による観光客の目的地化を図るとともに、地域間連携の強化による周辺地域への出発地としての機能強化を図る。		
実施年度	R5	事業費(円)	1,300,000円 (うち交付金充当650,000円)
実施内容	タビマエ・タビナカでの泉佐野市や和歌山市、紀の川市のインバウンド等の嗜好に合わせた情報をWEB上で発信することで、目的地として選定してもらい、地域での消費喚起による経済循環を作り上げる。 【和歌山市】 インバウンド客の獲得に向けて、観光施設や飲食店情報、モデルコース等、旅行者の需要に応じた情報発信などにより観光誘客を図る。 (R5主な実施事業) 【インバウンド誘客促進事業】 ・観光情報発信事業		

2 KPI(重要業績評価指標) 目標及び実績

KPI	基準値※	目標値(上段)				実績値(下段)			
		R2	R3	R4	R5				
①市内宿泊施設のインバウンド宿泊者数(単位:人) ※泉佐野市、和歌山市、紀の川市の合計	1,040,000	1,165,000	1,295,000	1,435,000	1,631,000				
		198,000	62,315	170,006	794,389				
②(仮称)りんくう野外文化音楽堂の利用者数(単位:人)	0	0	500	3,500	10,000				
		0	2,696	36,513	75,894				
③ガストロノミーツーリズムの利用者数(単位:人)	0	100	350	750	1,350				
		0	0	518	415				
④当該事業による消費効果額(単位:千円)	0	320,000	660,000	1,120,000	1,816,000				
		250,000	160,000	300,000	600,000				

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取組みとしても前進・改善したとは言えないような場合) E: KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	<div style="font-size: 48px; font-weight: bold; margin-bottom: 10px;">C</div> 事業期間内において新型コロナウイルスの流行によりインバウンドが激減したことで大部分のKPIを達成することができなかったものの、一部KPIは目標値を達成しており、また目標値を達成できなかったKPIについても前年度から増加していることから本事業は地方創生に効果があったと言える。

4 行政評価委員会による評価

評価	意見(今後の方向性や改善策等)
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が5月までである中、情報発信に尽くされた点は評価したい。 ・インバウンドに対して積極的な集客を期待できるシステムが構築されている。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトを作ったのは悪いことではないが、具体的な連携や、ニーズ、ターゲットの明確化がされていない。 ・他市へリンクしないウェブサイトはもったいない。個別でやるのではなく、広域で他市と連携し、相乗効果を図っていただきたい。 ・これからの目標達成に向けて、リアルタイムで指標などが分かるようなデータシステム化が求められるのではないか。 ・コロナ禍が終わった後、令和5年6月以降の活動内容を書いてほしい。 ・各市ごとに数値が分けできればベストだと感じる。 <p>【その他意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITなどを駆使して、幅広く広めていけたら色々な経済効果が生まれるのでは。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 まちなか活力再生と市民総活躍のまちづくり

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
基本目標Ⅳ:誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
関連のある数値目標:まちなか居住人口の比率 8.84%(H30)→ 9.24%(R6) まちなみの美しさに対する市民満足度 24.6%(R1)→ 25%(R6)

1 事業概要

事業目的	和歌山市駅から和歌山城を中心としたエリアでは、キーノ和歌山や商店街などの商業施設、こども科学館や博物館などの公共施設、和歌山城を集客拠点とし、国民文化祭開催のタイミングと合わせて市内外から多くの人を集め夜間を含めた全体の回遊性を高めながら、多世代の交流や滞在時間の延長と消費を促すことができる仕組みを構築する。また、郊外の地域拠点において、住民が主体となり、地域の特色を生かしたまちづくりを推進し、市街地での取組と有機的に結びつけ、まちの持続的な発展につなげる。 そしてこれらの取組について、若者をメインとした地域住民が一丸となって、民間と連携し市全体の魅力の向上やPR活動、賑わいづくりに自主的かつ持続的に取り組んでいくことができるまちづくりを目指す。将来的には、若者の地元定着につなげていく。		
実施年度	R5	事業費(円)	99,207,403円 (うち交付金充当44,378,569円)
実施内容	①地域と連携し新しい生活様式に対応した商店街の活性化 商業団体や個店等が商店街の魅力を発信するために行う事業や夜間の賑わいの創出が見込まれる事業に対し支援を行う。また、商店街の空き店舗等を活用した新規出店にチャレンジしやすい環境づくりや、若者と連携した若者目線による商店街の活性化を図る。 ②市街地の誘客性の向上 市のシンボルである和歌山城や、市街地にある拠点の誘客性を高め、拠点利用者を増加させることにより夜間も含めた市街地の流動人口の増加と拠点間の回遊を促進する。 ③地域拠点の機能強化 郊外にある地域拠点を地域住民や地域の団体等民間主導によるまちづくりを推進し、地域の高齢化や人口減少等の地域課題を解決し地域の特色を活かした地域拠点の形成により人口流入を図る。 (R5主な実施事業) 【地域と連携し新しい生活様式に対応した商店街の活性化】 ・空き家・空き店舗を活用したお試し出店 【市街地の誘客性の向上】 ・和歌山城での体験事業・情報発信の強化 【地域拠点の機能強化】 ・公共空間の賑わいを創出するための取組や、個性豊かな地域づくりにつながる取組を行う団体に対する補助		

2 KPI(重要業績評価指標) 目標及び実績

KPI	基準値※	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
①まちなか流動人口(単位:人)	34,850	34,950 38,191	35,220 38,308	36,220 38,641		
②まちなかの空家・空き店舗を活用したリノベーション件数(単位:件)	0	5 6	11 13	18 28		
③和歌山市駅の1日当たり乗降客数(単位:人)	16,455	16,555 12,714	16,670 14,373	16,785 15,352		
④地域住民によるまちづくり活動やふれあい活動に対する市民満足度(単位:%)	14.1	14.6 7.8	15.3 10.0	16.0 9.2		

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

		本事業終了後における事業効果
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	商店街の活性化やまちなかでのイベントの開催により、「まちなか流動人口」、「まちなかの空家・空き店舗を活用したリノベーション件数」については継続的に増加しており、目標値を大幅に超えて達成することができた。 また、「和歌山市駅の1日当たり乗降客数」と「地域住民によるまちづくり活動やふれあい活動に対する市民満足度」については目標値を下回ったものの、前者については順調に増加していることから、本事業は地方創生に相当程度効果があったと考える。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

4 行政評価委員会による評価

評価	意見(今後の方向性や改善策等)
<p>A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リノベーションによる商店街の活性化は少しずつ進んでいるように感じる。持続性を重視して取組を進めていただきたい。 ・再開発についても、再開発準備組合をつくるだけで終わりではなく、このまま進めていただけたらと考える。 ・北ぶらくり丁商店街、空き店舗活用、市駅前南地区再開発など、確かに活用されていることが分かり、評価できる。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な取組については、どのように制度化していくのか、やや不明確であった。 ・現在の投資から未来につながるイメージをもった企画立案が必要。単発になりかねない。 ・市民満足度も少し下がっていることから、できれば右肩上がりでの推移できればと思う。 ・空き店舗を開業した後のフォローやチェックが薄い。 <p>【その他意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民総活躍」というのなら、事業者プロポーザルで任せちゃうのはよくない。
<p>B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p>	
<p>C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)</p>	
<p>D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)</p>	
<p>E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)</p>	

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 わかやましゲートウェイプロジェクト～食と農水産と観光の融合～

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ: 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅱ: 住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

関連のある数値目標: 観光入込客数 669万人(H30) → 715万人(R6)

観光消費額 47,554百万円(H30) → 52,025百万円(R6)

1 事業概要

事業目的	四季の郷公園に本市初の道の駅(令和2年7月)、中央卸売市場の総合食品センター棟「わかやままるしゅ」(令和2年7月)の農・水産物の発信拠点がオープンした。これら2つの拠点に加え、新市民図書館(令和2年6月オープン)を含めた南海和歌山市駅前再開発、和歌山城ホールの整備(令和3年7月)などの本市の新たな拠点と南海和歌山市駅周辺の市街地を観光や物流の玄関口として最大限に活用する。加えて農業のブランド化・高付加価値化を促進することで持続可能で未来に希望の持てる農業を育成し、観光と食(農業)の効果的な融合により、観光客の周遊や観光消費の拡大を推進する。		
実施年度	R5	事業費(円)	180,439,941円 (うち交付金充当65,177,897円)
実施内容	<p>令和2年7月に本市初となる道の駅が四季の郷公園にオープン(本市東部)、令和2年7月に中央卸売市場に総合食品センター棟がオープン(本市西部)、市民図書館の再整備等や和歌山市駅前再開発や和歌山城ホールの整備が進んでいる(本市中心市街地)。本市の新たな拠点を活用し、地場産業と観光を融合させた施策を展開し、観光消費額の拡大を図る。</p> <p>(R5主な実施事業)</p> <p>【和歌山市を売り出す(効果的なプロモーション)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光情報等発信事業 <p>【和歌山市へ招く(体験型観光コンテンツの充実)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地周遊型スポーツイベント <p>【和歌山市でもてなす(地域資源を活用したおもてなし体制の充実)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜等産地強化事業 		

2 KPI(重要業績評価指標) 目標及び実績

KPI	基準値※	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
①観光消費額(単位:百万円)	47,554	23,777 34,702	33,337 41,419	47,787 46,606		
②年間宿泊客数(単位:千人泊)	959	479 744	672 873	982 993		
③四季の郷公園年間来場者数(単位:万人)	8	8 17	21.3 23	28.5 18		
④中央卸売市場食品センター棟の年間売上額(百万円)	60	61 52	63 58	66 63		

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
<p>A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)</p> <p>B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p> <p>C: 本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)</p> <p>D: 本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)</p> <p>E: KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)</p>	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p> <p>コロナ禍の影響が残っていることもあり大部分のKPIが目標値未達成だったものの、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げなどにより、観光需要が戻りつつあることからKPIは全体的に改善しており、コロナ禍前の基準値を上回っているものもあることから地方創生に効果があったと言える。</p>

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)		
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多分野に渡り、一つ一つの事業として丁寧に企画実施されており、実質的效果も得られていると感じる。 ・四季の郷公園の利用は少しずつ多くなっていると感じる。
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	C	<p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地の活用に関して、農林水産課をはじめ、ニーズを捉えきれていない現状は理解できているようなので、そこから一歩行動へ移っていただきたい。 ・遊休農地の効果的な活用に関する抜本的な政策が欲しい。
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な施策を連携の上、事業の効果を高められたい。 ・今後「わかやままるしえ」の観光としての活用を考えるのであれば、更なる市民・観光客への開放をしていただきたい。
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ) 検証シート

事業名 オンライン手続の拡充による住民サービスの向上

1 事業概要

事業目的	行政手続を自宅にいながらいつでも行えるよう、PCやスマートフォンなどで電子申請ができる仕組の提供を目指す。これまで、本人確認が必要であったり、手数料等の支払が必要でオンライン化できなかった手続をマイナンバーカード等と連携した電子認証機能やオンライン決済機能を導入することでオンライン化していく。また、申請者と自治体をデジタルでつなぐ双方向のコミュニケーションを実現するため、申請後の通知等をオンラインで行うことで多くの手続のデジタル完結を目指す。		
実施年度	R5	事業費	2,250,943円 (うち交付金充当1,125,471円)
実施内容	令和4年度から本格導入している行政手続オンライン化支援サービスに、以下の機能を拡充した。 【電子認証機能】 申請時にマイナンバーカードによる本人確認や情報入力が可能となる 【オンライン決済機能】 手数料等の支払がオンライン上で実行できる 【デジタル窓口機能】 申請者情報の登録や申請中の手続の状況、申請履歴の確認のほか、申請者への電子通知の送付など行政と市民の双方向のコミュニケーションが可能となる		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	目標値(上段)				
	実績値(下段)				
	R5	R6	R7		
①マイナンバーカード認証を利用した手続に係るオンライン申請の割合(%)	3 0	10	15		
②オンライン決済を利用した手続に係るオンライン申請の割合(%)	3 0.07	10	15		
③オンライン申請の満足度(%)	50 91.2	60	70		

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A:本事業は事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B:本事業は事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D:本事業は事業目的達成に対して効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合) E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin-bottom: 10px;">C</div> マイナンバーカード認証やオンライン決済を利用したオンライン申請の利用率については、担当部署との調整のため運用開始が年度後半にずれ込んだこともあり目標値には達しなかったが、これらの機能を活用したオンライン申請を始めることができた。従来から実施しているものも含めた本市のオンライン申請に対する満足度は高いことから、より多くの方に利用してもらえるよう、市民への周知を図るとともに、対象手続を拡充していく。

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> •KPIの未達もあるが、オンライン申請を始めたことは評価ができ、今後更に効果が見えてくる事業である。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> •高齢者などデジタルへの対応が困難な方向への説明会などを増やし、より多くの方に利用いただけるよう取り組む必要がある。また、法人が活用できるようにしてほしい。 <p>【その他意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> •個人情報なので、より慎重に対応いただきたい。 •評価はBとするが、KPIが未達となっているものについては、達成に向け着実に進めていただきたい。
B:事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:事業目的達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ) 検証シート

事業名 デジタル技術による議会の見える化・伝わる化事業

1 事業概要

事業目的	市議会に対する市民の関心・理解を高めることを課題として、議会の見える化・伝わる化に取り組んでいるところであるが、本市議会は全国的に見てもデジタル化に遅れをとっており、デジタル技術を活用した議会改革「わかやまスマート市議会」を構想している。その第一歩として、本会議場にモニターを設置し、傍聴者及びネット中継視聴者に分かりやすい表示をすることで、市民の関心・理解の向上を図る。		
実施年度	R5	事業費	6,080481円 (うち交付金充当3,040,240円)
実施内容	本会議場(傍聴席、演壇、傍聴席付近、議長席)にモニターを設置し、会議の進行状況、発言者名、議場配付資料、市議会のPR動画等をワイヤレスシステムを使って表示した。また、表示した資料はインターネット議会中継においても表示した。		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	目標値(上段)				
	実績値(下段)				
	R5	R6	R7		
①本会議の年間傍聴者数(人)	200 324	240	280		
②本会議のインターネット中継アクセス数(1日あたり)(回)	120 124	140	160		
③モニター設置等に係る広報回数(回)	12 9	15	18		
④モニター設置についての満足度(%)	70.0 90.0	80.0	90.0		

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A:本事業は事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B
B:本事業は事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は事業目的達成に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	
会議の進行状況や発言者名、議場配付資料等をモニターに表示することにより、議場で行われていることの把握が容易になり、傍聴者やインターネット視聴者の理解や関心を高め、KPI実績目標値を概ね達成することに寄与したと考えている。 モニター設置等に係る広報回数の目標値については、設置時期が2023年9月定例会からであり、6月の広報回数が含まれず未達成となったものの、今後も引き続き事業目的達成に向け、幅広い周知や、表示内容、レイアウト等の工夫に取り組んでいく。	

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPI数値も概ね達成されている。 ・議会の見える化は非常に大切であり、市政に対する関心を高めるために拡大してほしい。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は認知度が課題かと思われる。より多くの市民がアクセスできる環境を整備していただきたい。 ・ゆくゆくはネット採決、ペーパーレスを目指していただきたい。
B:事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:事業目的達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとはいえないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ) 検証シート

事業名 和歌山市民図書館のスマート化

1 事業概要

事業目的	和歌山市民図書館(本館、西分館)及び市内6か所に点在するコミュニティセンター図書室の運営に係るシステムについて、従来図書館利用券による貸出を行っていたものを、マイナンバーカード等の図書館利用券化や、「和歌山市民図書館アプリ」を導入することによりスマートフォンなどでも貸し出しを可能にするなど、図書館利用者の利便性と快適性を高めた図書館システムを導入する。		
実施年度	R5	事業費	176,102,300円 (うち交付金充当88,051,150円)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用券に加えて、マイナンバーカード・交通系ICカードによる図書の貸出を追加し、仕事帰りや買い物の途中などでも気軽に利用できるようにした。 ・「和歌山市民図書館アプリ」を導入し、利用券バーコードの表示、書籍検索、本の予約等、利用者にとって便利な機能をアプリに集約し、利便性を向上した。 ・手元のスマホ等での情報収集等や、テレワーク拠点としても活用できるようWi-Fi環境等を整備した。 		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	目標値(上段)				
	実績値(下段)				
	R5	R6	R7		
①マイナンバーカードによる図書館利用券登録者数(人)	50 7	3,000	5,000		
②図書館アプリダウンロード数(人)	50 344	8,000	15,000		
③交通系ICカードによる図書館利用券登録者数(人)	30 18	2,000	4,000		
④利用者の満足度(%)	80 92	90	100		

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A:本事業は事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B 和歌山市民図書館のスマート化の稼働日が2024年3月28日であり、2023年度の稼働期間が4日間のみだったことから、KPI実績に影響を与える期間が短く、目標値に達しなかった項目があったものの、稼働後4日間で、「図書館アプリダウンロード数」と「利用者の満足度」が期待を上回る結果であったことから、図書館利用者の利便性と快適性を高めることができたと考え、事業の成果が得られたと考えている。
B:本事業は事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は事業目的達成に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリを導入したことは評価でき、今後の来館者数の増加にもつながると考えられる。 ・図書館は、年齢・性別問わず憩いの場ともなる。DXも進めながら利用券も使用でき、案内も求められれば対応してくれるのは安心。安心・安全な場所づくりにつながられている。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者やデジタルが苦手な方に対し、より丁寧な説明をするなど、利用しやすい環境整備に努めていただきたい。 ・さらなる機能の拡充を図るとともに、非来館型サービス、電子書籍の導入も検討いただきたい。 ・認知度の向上に努められたい。
B:事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:事業目的達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		